

日本クリスチャン・アシュラム連盟

春季号

開心  
静聴  
充満  
献身  
奉仕

# 日本アシュラム

Spring 1979

United Christian Ashrams of Japan

27

## 黙想

〈聖書の時〉

### キリストの卓越性

デ・ピ・タイタス師

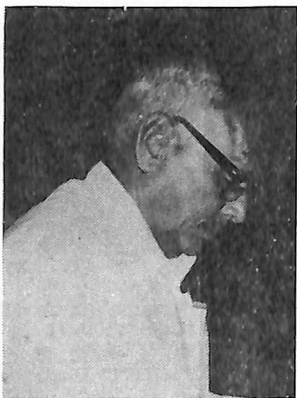
聖書・ペテロ第一書二章四―七節

インドは世界諸宗教の母国である。仏教、ジャイナ教、ヒンズー教、回教も盛であるが、キリスト教も一世紀の初めに使徒トマスがきて伝道した。インドも世界各地でも全ての人が主イエスに深い尊敬を抱いている。クリスチャンに反対する者も主イエスには尊敬を払っている。今朝私の心にペテロ第一書二ノ七節が留まっている。主は尊いもの、彼に比すべきお方はない。その品性と生活は全人類の模範である。これが結論であるが、その理由を述べよう。宗教は多くあるが、全く罪なきお方を教祖とするものはキリスト教以外にない。回教も主は罪なき処女から生れたと認めている。ヒンズー教の古書にも主は罪なき方と記してある。聖書は勿論、主イエスが私たちとちがい、罪の遺伝を受けずに生れ、罪人のように十字架にかけられたが、罪がなかったことを証明している。ヘロデ王もピラト総督も調査の結果、この人に罪はないと言った。いよいよ十字架にかけられた時、ローマ軍の兵士たちは『誠にこの人は神の子であった』と言い、主と共に架けられた二人の盗賊の一人も『この人は何も悪いことをしていない』と言った。従って主についてこの点を疑う者はクリスチ

ヤンではない。

私は米国の神学校で学んだが、主イエスの卓越性を信じない人があるが、それは主に疑問があるのでなく、人間に原因があることを知った。回教徒もイエスの神聖を認め、コーランに述べているが、不思議な事はクリスチャンの中に処女降誕を疑う人がいることである。他人はともかくアシュラムの兄弟姉妹は聖書を愛し、イエスの尊さを疑わないはずである。

旧約には聖者はらい病や死体にさわってはならぬという定めがあった。インドでも聖なるヒンズー教徒は病人や死体に近づかない。然し主イエスは盲人を医し、らい病をきよめ死人を甦えらせた。それによって主イエスが汚れを受けることはなかった。聖なるものについての新しい道が主によって初められたのである。



▼ 連盟は創始者の祈りによって各地に生れたブガミリーの全国的な交わりであって、常に新しい家族(単位)の参加を期待している。

編集人 海老沢 直道  
発行人 大石 嗣郎  
定価 一部 50円 千50円

山根可式著  
『アシュラムの恵』(百円)

インド人は主の卓越性はギャニーであると言う。全てを知る方との意である。イエスは何を知っておられたか。神と一つであることである。『父と私は一つである。私によらないでは誰も天国に行けない。私は天よりのパンである。』と言われ、ヨハネ福音書は二六回以上も主が父から遣わされた方であると述べている。故に彼はギャニー(全知の方)である。

取税人ザアカイは主イエスとその町に來ることを聞いて木の上に登ったが、主は彼を認めて降りてきなさいと言われた。ピリポに連れて來られた男に『ナタナエルよ。木の下で祈っていたのを知っている』と言われた。神を知る極致は、神と我とは一つなることを自覚する所にある。私たちはインド語からアシュラムを採用した。もしこの語に内容がなければ無意味である。インド的内容として私は福音書の中に、主イエスこそワラギ(世捨人)であることを知る。この世に何も持たない人のことである。主は父母、兄弟、子供、財産を持っていなかったが、一切を持っておられた。カナの村での婚宴で母マリヤが手伝っていた時、ぶどう酒がなくなつた。彼女がイエスにその事を告げた時、『愛するお母様、少し待って下さい』とは言わず、『女よ、私とこれとの関係があるか』と言われた。私はこの事が仲々理解できず、嫌な言だと思つた。然し今は判っている。イエスは召命のためにワラギとなられた。父母なき人となられたのである。今一つの場合

を見よう。主が説教中、人が耳もとに近づき、「先生、お母様とお弟様方がきていますよ」と告げた時、「私の母、兄弟とは誰か。ここにいる諸君の他に私の母、兄弟があるのか」と言われた。十字架の下へ行って見よう。そこに一人の婦人が立っていた。母マリヤである。主は世を去る後、彼女のことを思い「母上」と言わず「女よ、そこにいる人を息子にしなさい」とヨハネを指した。

イエスは無一物であった。ガリラヤ湖畔で五千人に与える食物はなかった。五つのパンと二匹の魚は少年から借りたものである。ユダヤ人が納税の時がきてもわれらの主は無一文であった。弟子を湖にやって魚を釣らせ、その口の中から貨幣を取り出して納税された。二人の弟子がきて「私たちはどこまでもあなたに従います」と言った時、彼らの思いがいを正すために「空の鳥に巢があり、狐に穴がある。然し人の子には枕する所がないのだ」と言われた。エルサレム入城の平和の君はろばに乗るはずであったが、イエスはそれも人から借りて行った。最後の晩餐をする時も、主には家なく牛や羊の肉もなかった。ある人の二階を借り、見知らぬ人の用意でパンとぶどう酒を分け与えられた。十字架につくためにも、他人が作った十字架を受けられた。運ぶ人がいなかったので彼が負われた。主は彼の十字架でなく、私や皆様の十字架を受けられた。イエスは罪なく恥をもたないのに、私の罪、私の恥を負われた。息をひきとったら墓が必要であるが、大き

な岩に穴を掘って作る金も人手もなかった。アリマタヤのヨセフの新設した墓に入れて貰った。

スタンレー・ジョーンズもワラギの生活を送られた。世界で最も有名な宣教師で各地に招かれ謝礼が出た。彼の事務所では各地からの招待状がきて何ドルのお礼をするからと書かれていた。彼は従て相当の金を得られたが、毎日貧しい生活をしてきた。多くの神学生の生活を支え、アシュラム・センターを各地に作り、それらのため全部を捧げて単純素朴な生活をしておられた。ある時フロリダの友人と先生の家を訪問したが、大きな邸宅とあったのに小さなみずぼらしい家で驚いた。他人を富ませるため自分は貧しい生活をした。インド人は彼もワラギの生活実行者と見ている。多くの信者にはワラギの影すら見えない。自分に有り余る物を持ち乍ら主の弟子たり得ようか。アシュラムとはこのワラギの精神を身につけて、世の富、名与、地位などに目もくれないで、ただ主イエスに従うことである。今日若い人々の間にこのような物質文明を逃れて、何か精神的なものをつかみたいとの運動が起っている。これは今日の教会への挑戦でないか。教会こそ主イエスの中に生きる無一物の精神を与える使命がある。もし教会が与えないなら、アシュラムが与えねばならない。

苦難をする。大事業のかけには多くの犠牲が払われるものである。しかし神の前に罪を犯し当然亡ぶべき魂を救うための犠牲を払われたのは、主イエスのみであり、その受難は恩寵となって私たちに与えられている。恵みは苦難の中に現われた。苦難なき所に犠牲も愛も恵みもない。

### 第三回国際アシュラムの旅

## 栄光に生きる日々

### ビル・バーグ師

それは日本における最初の全国的アシュラムであった。二百名以上が八地区から集まった。海老沢と大石の両牧師は大きな効果的指導をした。朝七時の時間は満堂であった。それは実に国際的で、インドのタイタス、瑞典のステン、韓国の金、日本の中路、米国のワグナーとパーグによる感動的なメッセージがあった。

最後の日、聖餐式と充滿の時を守ったあと、私たちは決して忘れることのできない光景に接した。富士山はその数日間雲に包まれていた。祝祷のあと会場の窓外を見た時、霧の中から一万二千呎の頂上が壮大な白雪を頂く姿を現わしてきていた。それは正に創造主なる神の栄光と力と神秘とを筆舌を超えた雄弁をもって宣言しているかのようにであった。この神の祝福の中に私は御声を聞く思いがした。

「私は今日お前に生命を救と与えるために肉をさき血を流し、お前のために苦しむ僕として来た。今私は山の上から

### アシュラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し

力について強い印象を受けてきた。ユラムは今回の一団に加わったハワ、瑞典、フィンランド、インド、カリビヤ諸島、カナダ、米国においても同様である。

アシュラムには生命がある。主イエスキリストは今も生きて、あらゆる方法により、特にアシュラムのキリストとして力強い奇跡を行なっておられる。今までこれほど感動したことはなく、前途に最善の實のり豊かな時を望むことのできた時はなかった。

われらは誰ぞ

ありきたりの旅人ではない、伝道の旅にある神の民。われらは観光旅行をしなかった。神の国の新しい光景を求めて。新しい国々への旅以上であった。信望愛の新しい展望であった。この世から逃れる旅人ではない。この世に神の力あるみわざを見た。われらの伝道でなく、主の御言。われらの選択でなく、主の選び。主による恵みの群れが帰宅し後のまた帰天して後の証しの実習。

広島は雨だった

十月十六日平和記念堂にすすり泣く静かな群が立った。雨が降っていた。三年前八月六日ここで原爆により二三万人が殺されたのである。谷本牧師と共に立っていた。彼の教会も会員の大多数もその時やられてしまった。彼は奇跡的に残

され救助活動の指導者の一人となった。私たちはそこで共に祈った。『主よ、われらを憐み給え、日本を憐み給え。米国の上に、あなたの教会の上に憐みを垂れ給え』と。

私たちは神の裁きの下に立ち、次で恵みの下に移される感動的経験をした。二五名の娘が治療のために米国へ渡ったがその一人が主の愛を知り、ドクターが彼女の顔を新しくできなくても心配しない



バーグ博士夫婦

で、私は新しい心を頂いたから、それで十分ですと証言した話を聞いた。谷本師の教会が廃址の中から再生したことは深い感銘である。私たちは岩の上に建てられた震われない御国に属しているのだ。

『もしわが名によりて呼ばれるわが民が、己れを低くして祈り、わが顔を求め、悪しき道を離れるならば、われは天より聞いて彼らの罪を許し、その地を医やす』(歴代下七章一四節)。

各地だより

関西アシュラム支部報告

副理事長・委員長 中路嶋雄

一、第十三回関西アシュラム修養会

日時 一九七八年十一月二一―二三日  
場所 淀川善隣館(大阪市大淀区)  
参加者 男32 女16 計48  
(教職16、信徒32)

前年より大勢の参加になった。

二、第十四回関西アシュラム修養会

日時 一九七九年十一月二二日(木)  
場所 未定  
講師陣 支部委員達で。

三、第三回国際アシュラムの感想

- 1. 講師の講話が非常に感銘深いものだった。心を開いたよき友であり得た。
- 2. 国際的な暖い交わりができ感謝た
- 3. 会場の環境が清楚で美しく、その雰囲気 genuinely 宗教的でよかった。
- 4. 国際的だったと同時に、日本各地のアシュラムの友との交友は大喜だった
- 5. ファミリーアワーについて、外国人と日本人とを一緒にすることは、通訳を要するため、別のファミリーにした方がよいとの意見も出たが、其処が国際アシュラムである豊かさがある理である。少くとも、私のファミリーには四人の外人がいてくれて、素晴らしかった。今後国際アシュラムらしく、一緒にファミ

- (三) 聖霊の啓導と充滿
- (四) 神の国の体験と献身
- (五) 教会への奉仕と伝道

リーを構成したい。

6. 彼等と大阪で別れた時はもうこれで「さようなら」なんだと思われ、限らない淑しきを感じた。見送ることのつらさであった。地球的な祈りが出来て感謝である。グローバルな時代に愈々アシュラムは世界平和に貢献するであろう。

四、日本アシュラムの将来

1. 榎本兄の尊い努力によるアシュラムもあるが、矢張りジョーンズ博士が望んだのは教会の世界的合同だったし、二つのアシュラムが日本にあるということには悲しい。全く一つになりたいと祈る。

2. 今回の第三回国際アシュラムは関東勢が最優勢で次に関西勢が多数参加した。細長い日本の地形で北海道や沖縄、九州は大変だと思ふ、併し、もっと大勢が参加出来る工夫をしたい。

3. 経済上大変とは思ふが、各支部に夫々支部と副支部長とを設け、理事会の一員とすることにしようか。

4. 各個教会で、或は地域のプロックでアシュラム修養会が開ける様になればと思う。それに先立って、各支部で盛大な、深味のある、キリストが主であり給う葡萄の枝としての教会が生きて成長して行く教会アシュラムを盛んにしたいものだ。主イエスのみいまして絶対無の信徒ばかりが生れてくれれば世界も日本も恵みに満ちてくる。私は夢を見、幻を見ている。ジョーンズ博士は日本を信頼し、日本への期待は大きかった。

5. 少くとも、アシュラムをやる教会は刷新する。立正佼成会は四百万の信徒

を有する新しい信仰団体になった。庭野日敬は小学校を出ただけで偉大な教養を蔵し、美しい人格的信仰者である。多くの学問教養を持つ牧師がいて、教会の状況がこれでは相すまぬと思う。訪問伝道と並行、数千の礼拝者が霊と真を以って礼拝する教会がせめて百位は日本にも欲しいものである。

6. ジョーンズ博士がやってくれたアシュラム独自のアシュラムを行い、お祭的なアシュラムにはならぬがよからう。

▼京浜アシュラム(責任者、今井寿)

十一月二―四日湯河原更生年金会館にて開かれ、一四五名参加、設備環境の良さと共に大いに恵まれた。

▼江古田教会アシュラム(海老沢宣道)

十一月十九日(日)礼拝から夕刻まで助言者に植村俊雄師を迎え、参加五二名

▼四国地区アシュラム(長、宇都宮充)

一月十三―十五日徳島県土柱休暇村センターで助言者に横山義孝師を迎えて開く。参加二五名。殆んど新人。中の聖日は鴨島、脇町の両教会礼拝に分散出席。静かな交わりの中で御言への聴従を修得

▼西川口教会アシュラム(横山義孝)

二月十、十一日(日)にかけて守り、参加者四〇名。大いに恵まれた。

▼東京城北アシュラム(山根可式)

二月十二日(月)朝九時―夕五時、池ノ上教会にて主題「神に近づけ」の下、海老沢(礼拝)松田(開心)洲江(静聴の時)有馬(恵みの時)祈の細胞のあと

山根(充滿)を担当。参加五〇名。

▼東京城西アシュラム(洲江淳一)

四月三十日(月)朝十時―夕五時、東小金井教会にて、助言者は洲江、有馬、草村、植村の諸師が分担、主題「勝ち得て余りある信仰」として守る予定。

▼関東地区アシュラム(十七回)

本年十月九日(火)―十一日(木)会場・青梅市古里、福音の家助言者・海老沢、横山、山根、松田、有馬、洲江、植村その他。

今から祈をもて備え多数参加を期待す。

◆第四回国際アシュラム(予告)

一九八〇年三月、聖地ガリラヤ湖畔でジョーンズ記念館献堂式を守り、各地を巡礼してから、インド国サトタルにて同地アシュラム五〇年祭と合せて開催予定

◎ジョーンズ博士

記念事業報告

創始者ジョーンズ博士記念事業のため去七三年から七七年末まで全国同志から尊い献金が寄せられ感謝に耐えません。そのお名前と金額は本紙の第五号から第二二号までに発表した通りです。

おかげで米国アシュラム連盟へ約束の金一万ドルを送金することができたことをここに感謝をもて報告いたします。

事業会計収支報告

(収入の部) 献金並に利息 二、四三八、九〇二円

(支出の部)

一千ドル(前送分) 二七八、四〇〇円  
九千ドル(昨年送) 一、七四一、五〇〇円  
募金諸経費 四五、一八二円  
差引残高 三七三、八二〇円  
合計 二、四三八、九〇二円

◎第三回国際アシュラム会計報告

(収入の部)

東山荘申込並に宿泊 二、六九〇、〇〇〇  
歓迎レセプション 三五、〇〇〇  
全国募金 一八一七、四四六  
席上献金 二八二、六四八  
合計 四、八二五、〇九四

(支出の部)

東山荘支払 二、四六三、七一〇  
講師謝礼 二四〇、〇〇〇  
献金(インドへ) 一四一、三三四  
海外参加者接待補助 四〇一、一一〇  
印刷費その他 四九九、〇五一  
準備会(諸委員会) 五八一、一〇〇  
新聞広告代(二社) 九二、五〇〇  
事務・通信費 二一三、〇九〇  
入国手続料(韓国) 一四、三二六  
差引残高 二〇八、八八三  
合計 四、八二五、〇九四

差引残高の処理方法

去二月二六日開催の全国理事会に於てジョーンズ記念事業の三七三、八二〇円は国際アシュラムにおいて海外来賓の接待に金四〇万円を支出しているため、日本側に頂くこととし、国際アシュラム会計の差引残高金二〇八、八八三元と共に日本アシュラム連盟の会計に繰入れることに承認されましたので、右の通り処理いたします。(責任者・大石総務)

最新刊

海老沢宣道著

アシュラムの原則と実際

定価300円 760円

アシュラムの創始者・故スタンレー・ジョーンズ博士の直伝を受けた著者が、平易に解説し今回小冊子にまとめられた。参考書として活用されたい。

日本アシュラム編集部

177 東京都練馬区三原台1-18-1 海老沢方

神学博士 中路嶋雄 著作

使徒信条の性格	(学術書)	A5	¥1,200
宗教の真理性	(学術書)	A5	¥2,500
時満ちなば	(説教集)	B6	¥800
かくされた宝	(説教集)	B6	¥1,600
風のよれば	(講話集)	B6	¥400
愛さえあれば	(講話集)	B6	¥400
秘められた生活	(講話集)	B6	¥450

(〒530) 大阪市北区神山町9-19

日本基督教団 扇町教会

参加者が何度でも読むべきもの「アシュラムとは何か」(50円)

東京都目黒区中央町1-21-10 碑文谷教会受付